

## 巻頭言

# 育てる

久保 幹



立派な樹木が鎮座している姿は見事である。そして、これらの樹木は敬意をもって守り育てられている。一朝一夕では、見事な樹木が育たないことを皆が知っており、その長い年月を思えば無意識のうちに大切にしているのであろう。

一方、植えっぱなしにされている幼木をしばしば目にするところがある。時に枯れて、無残な姿のまま放置されている場面にも遭遇する。これは無意識のまま、「枯れたらまた植え替えればよい」と思っているのかもしれない。

私が奉職する大学のキャンパスは、立派なキャンパスであり、広大な敷地に多くの植栽が施され、四季折々の風情を感じられるように設計されている。しかし、木々が育っていない。移転して20年以上経つが、キャンパスの木々は輝きを放っていないのである。

昨年、4本の桜が枯れた。きっちりと管理をしているのだが、残念ながら回復には至らなかった。

その後、これらの桜は新入生を迎えるために、新しい桜に植え替えられた。木の成長にとっては、また1年生からのスタートとなったのである。

キャンパスの中には、本当に残念であるが、回復の見込みがない木々がたくさんあり、毎年何本かの木が枯れていく。新学期に見事な花を咲かせ、新入生の入学に彩を添えるため育てられてきた桜の木も含まれている。

元気のない桜は、地衣類（ちいりい）（菌類や藻類が共生したもの）が多数寄生し、中にはシロアリの住処になっている桜もあった。木が弱っているのは、春に花をつけないのも当然であろう。

「木々が元気がならない原因は何か？」いろいろな原因を探したが、結局は土に原因があった。pHが異常に高く、土の中の代謝も極端に低下していたのである。

弱った桜の木の下を少し掘ると、造成の時に排出されたと思われるコンクリート片が出てきた。雨水などで、これらから成分が徐々に溶けだし、周辺の土壌環境を悪化させていたと推察された。その結果、土が固くなり、誰が見てもよい土とは言えない状況に

なったのであろう。言い換えると、「土が育っていない」のである。ただ、土の中の微生物は健在で、汚染の兆候は認められなかったのは幸いであった。

これらの原因を取り除くため、元気がない15本の桜の木々の根元の土を改善してみることにした。

桜の木々の根元周辺の土を慎重に掘り起こしたところ、元気がない桜の木々ではあったが、太い根が確認され、養分を吸収しようと頑張っていた。しかし、土の環境を整えるミミズや虫の幼虫の姿は皆無であった。

土の肥沃度を上げるため、出来る限りコンクリート片を取り除き、土壌分析結果に基づき、地域のバイオマス（堆肥等）を適切に処方した。

効果はてき面であった。土のpHは正常に戻り、代謝活性も顕著に上がった。桜の木々の下の草は少しずつ増え、半年後、処方したところの草は、一目瞭然、青々と繁り旺盛になった。そして、桜の木々には脇芽もたくさん現れたのである。桜の木々が元気になったのを肌で感じる事が出来た。

シロアリの住処になっていた瀕死の桜からは、シロアリが完全に姿を消した。そして、昨年全く花をつけなかった桜が、今春はわずかではあるが、花を咲かせたのである。

処方した15本の桜は、樹形はまだ整っていないが、処方前と比べると、明らかに綺麗な花を咲かせた。桜の木々が息吹を取り戻し、確実な成長の一步を歩み始めたというメッセージを発しているかのようであった。桜の木々からエネルギーをもらった瞬間であり、何とも言えない嬉しさを感じた。今後、木々が大きな樹木に成長し、日々、学生に活力を与え続けてくれるキャンパスになってくれることを願っている。

整備された街並みは本当に美しい。そこで人々は育っていく。同じように、植物そして土も育まれる。将来を見据え、生物や環境の成長を楽しみながら、共に街並みの成長を実感できる開発を心から期待したい。